TADOKU JUNIOR　オズの魔法使い　★★★★☆ ながい　921語

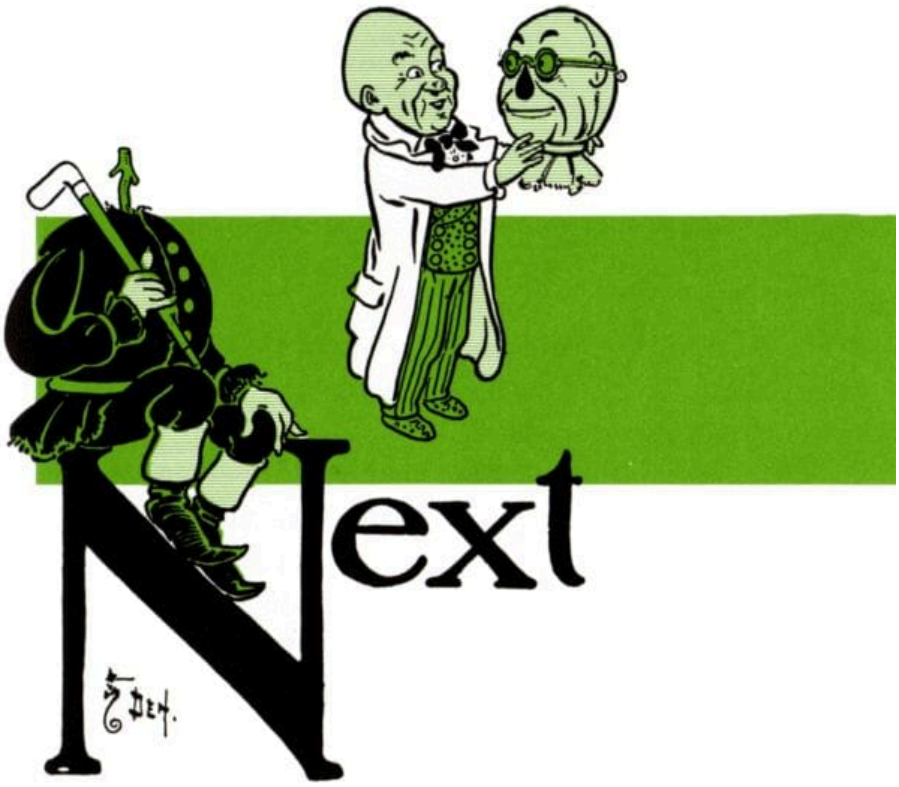
The Magic Art of the Great Humbug

第16章　大ペテン師の魔法

L. Frank Baum（1900年の本）　**原文そのまま**　朗読：Phil Chenevert

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　いよいよ願いがかなう日。オズはかかしに脳みそを、きこりに心を、ライオンに勇気をあげます。でも、その中身は……？



Next morning the Scarecrow said to his friends:

"Congratulate me. I am going to Oz to get my brains at last. When I return I shall be as other men are."

"I have always liked you as you were," said Dorothy, simply.

"It is kind of you to like a Scarecrow," he replied. "But surely you will think more of me when you hear the splendid thoughts my new brain is going to turn out."
Then he said good-bye to them all in a cheerful voice and went to the Throne Room, where he rapped upon the door.

"Come in," said Oz.

The Scarecrow went in and found the little man sitting down by the window, engaged in deep thought.

"I have come for my brains," remarked the Scarecrow, a little uneasily.

"Oh, yes; sit down in that chair, please," replied Oz. "You must excuse me for taking your head off, but I shall have to do it in order to put your brains in their proper place."

"That's all right," said the Scarecrow. "You are quite welcome to take my head off, as long as it will be a better one when you put it on again."

So the Wizard unfastened his head and emptied out the straw. Then he entered the back room and took up a measure of bran, which he mixed with a great many pins and needles. Having shaken them together thoroughly, he filled the top of the Scarecrow's head with the mixture and stuffed the rest of the space with straw, to hold it in place. When he had fastened the Scarecrow's head on his body again he said to him,

"Hereafter you will be a great man, for I have given you a lot of bran-new brains."

The Scarecrow was both pleased and proud at the fulfillment of his greatest wish, and having thanked Oz warmly he went back to his friends.

Dorothy looked at him curiously. His head was quite bulging out at the top with brains.

"How do you feel?" she asked.



"I feel wise, indeed," he answered, earnestly. "When I get used to my brains I shall know everything."

"Why are those needles and pins sticking out of your head?" asked the Tin Woodman.

"That is proof that he is sharp," remarked the Lion.



"Well, I must go to Oz and get my heart," said the Woodman. So he walked to the Throne Room and knocked at the door.

"Come in," called Oz, and the Woodman entered and said,

"I have come for my heart."

"Very well," answered the little man. "But I shall have to cut a hole in your breast, so I can put your heart in the right place. I hope it won't hurt you."

"Oh, no;" answered the Woodman. "I shall not feel it at all."

So Oz brought a pair of tinners' shears and cut a small, square hole in the left side of the Tin Woodman's breast. Then, going to a chest of drawers, he took out a pretty heart, made entirely of silk and stuffed with sawdust.

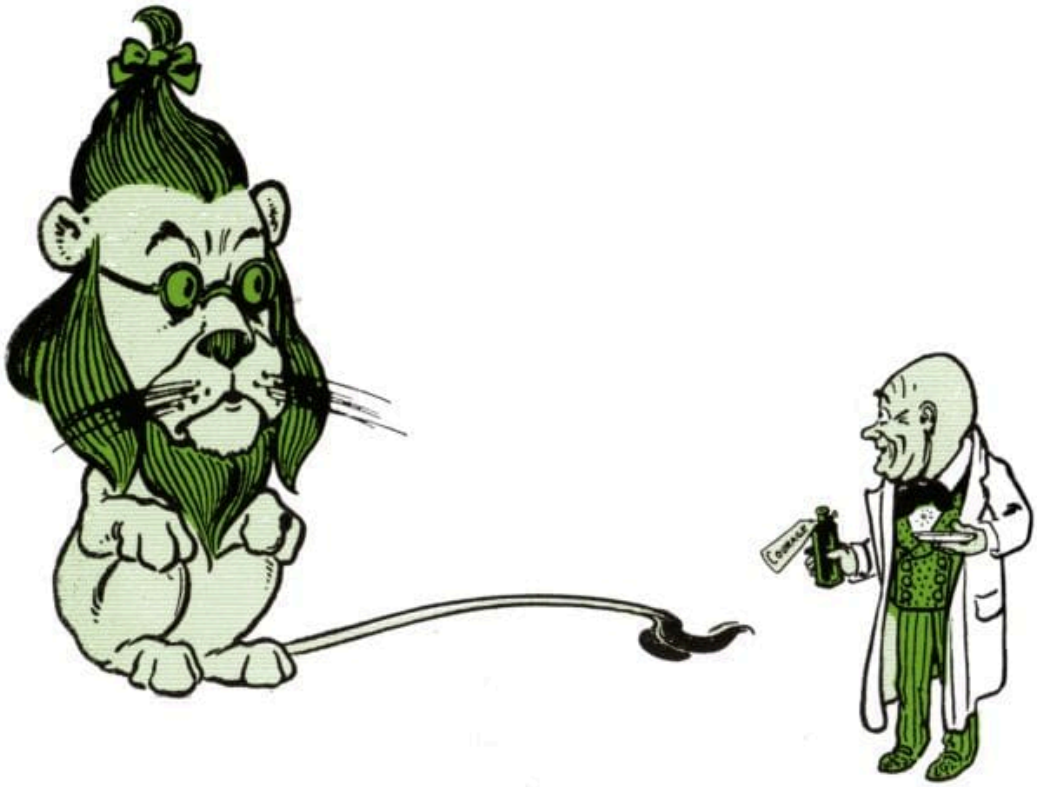
"Isn't it a beauty?" he asked.

"It is, indeed!" replied the Woodman, who was greatly pleased. "But is it a kind heart?"

"Oh, very!" answered Oz. He put the heart in the Woodman's breast and then replaced the square of tin, soldering it neatly together where it had been cut.

"There," said he; "now you have a heart that any man might be proud of. I'm sorry I had to put a patch on your breast, but it really couldn't be helped."

"Never mind the patch," exclaimed the happy Woodman. "I am very grateful to you, and shall never forget your kindness."



"Don't speak of it," replied Oz.

Then the Tin Woodman went back to his friends, who wished him every joy on account of his good fortune.

The Lion now walked to the Throne Room and knocked at the door.

"Come in," said Oz.

"I have come for my courage," announced the Lion, entering the room.

"Very well," answered the little man; "I will get it for you."

He went to a cupboard and reaching up to a high shelf took down a square green bottle, the contents of which he poured into a green-gold dish, beautifully carved. Placing this before the Cowardly Lion, who sniffed at it as if he did not like it, the Wizard said,

"Drink."

"What is it?" asked the Lion.

"Well," answered Oz, "if it were inside of you, it would be courage. You know, of course, that courage is always inside one; so that this really cannot be called courage until you have swallowed it. Therefore I advise you to drink it as soon as possible."

The Lion hesitated no longer, but drank till the dish was empty.

"How do you feel now?" asked Oz.

"Full of courage," replied the Lion, who went joyfully back to his friends to tell them of his good fortune.

Oz, left to himself, smiled to think of his success in giving the Scarecrow and the Tin Woodman and the Lion exactly what they thought they wanted. "How can I help being a humbug," he said, "when all these people make me do things that everybody knows can't be done? It was easy to make the Scarecrow and the Lion and the Woodman happy, because they imagined I could do anything. But it will take more than imagination to carry Dorothy back to Kansas, and I'm sure I don't know how it can be done."

つぎの朝、かかしは仲間たちに言いました。

「おめでとうと言っておくれ。いよいよオズの所へ行って、脳みそをもらってくるんだ。帰ってきたら、わたしもほかの人たちと同じになっているよ。」

「わたしは、今のままのあなたがずっと好きだったわ」とドロシーはすなおに言いました。

「かかしを好きになってくれるなんて、きみはやさしいね」とかかしは答えました。「でも、新しい脳みそがうみ出すすばらしい考えを聞いたら、きっと、もっとわたしのことを見なおすよ。」それからかかしは、元気な声でみんなにいってきますと言って玉座の間へ行き、とびらをコツコツとたたきました。

「お入り」とオズは言いました。

かかしが入っていくと、小さな男は窓ぎわにすわって、深く考えこんでいました。

「脳みそをいただきにまいりました」とかかしは、少しおずおずと言いました。

「ああ、そうじゃったな。そこのいすにすわっておくれ」とオズは答えました。「頭を取りはずすのを、ゆるしておくれよ。脳みそをちゃんとした場所に入れるには、そうしなければならんのでな。」

「かまいませんよ」とかかしは言いました。「またつけてくれたときに、前よりいい頭になっているのなら、どうぞ遠りょなく取りはずしてください。」

そこで魔法使いはかかしの頭をはずして、中のわらを出してしまいました。それから奥の部屋に入って、ふすま（麦のぬか）を1ますすくい取り、そこに待ち針と縫い針をたくさんまぜました。それをよくふりまぜてから、かかしの頭の上のほうにつめこみ、残りのすきまには、それが動かないようにわらをつめました。かかしの頭をまた体にくっつけると、オズは言いました。

「これからは、あんたはえらい人になるじゃろう。ふすま入りの、ま新しい脳みそを、どっさり入れてあげたからのう。」

かかしは、いちばんの願いがかなって、うれしくもあり、とくいでもありました。そしてオズに心からお礼を言うと、仲間たちの所へもどりました。

ドロシーは、ふしぎそうにかかしを見ました。かかしの頭は、脳みそでてっぺんがぷっくりふくらんでいました。

「どんな気分？」とドロシーはたずねました。

「ほんとうに、かしこくなった気がするよ」とかかしはまじめに答えました。「この脳みそに慣れてきたら、なんでもわかるようになるだろうね。」

「どうして頭から針がつき出ているのですか？」とブリキのきこりがたずねました。

「頭が切れる、するどいやつだというしょうこさ」とライオンが言いました。

「さて、わたしもオズの所へ行って、心をもらってこなくては」ときこりは言いました。そこできこりは玉座の間まで歩いていって、とびらをノックしました。

「お入り」とオズがよぶと、きこりは中に入って言いました。

「心をいただきにまいりました。」

「よろしい」と小さな男は答えました。「だが、心を正しい場所に入れるには、あんたの胸にあなを開けなければならん。いたくなければいいのじゃが。」

「いいえ、だいじょうぶです」ときこりは答えました。「わたしは少しも感じませんから。」

そこでオズはブリキ職人の大きなはさみを持ってきて、ブリキのきこりの胸の左がわに、小さな四角いあなを開けました。それから、たんすの所へ行って、全部絹でできていて、中におがくずをつめた、かわいらしい心臓を取り出しました。

「どうじゃ、きれいじゃろう？」とオズはたずねました。

「ほんとうに！」と、きこりは大よろこびで答えました。「でも、それはやさしい心ですか？」

「ああ、とてもやさしいとも！」とオズは答えました。オズはその心をきこりの胸の中に入れると、四角いブリキをもとにもどして、切った所をきれいにはんだでつなぎ合わせました。

「さあ、できた」とオズは言いました。「これで、だれもがじまんしたくなるような心が手に入ったよ。胸につぎを当てることになって、すまなかったのう。だが、こればかりはどうしようもなかったのじゃ。」

「つぎのことなんか気にしません」と、しあわせなきこりはさけびました。「ほんとうに感謝しています。ご親切は決してわすれません。」

「礼にはおよばんよ」とオズは答えました。

それからブリキのきこりは仲間たちの所へもどりました。みんなは、きこりのしあわせを心からよろこんでくれました。

今度はライオンが玉座の間まで歩いていって、とびらをノックしました。

「お入り」とオズは言いました。

「勇気をもらいに来ました」と、ライオンは部屋に入りながら言いました。

「よろしい」と小さな男は答えました。「持ってきてあげよう。」

オズは戸だなの所へ行き、高いたなに手をのばして、四角い緑のびんを取り出しました。そして中身を、美しいほりもののある、緑と金の皿にそそぎました。おくびょうなライオンは、気に入らないとでもいうように、それをくんくんかぎました。魔法使いはその皿をライオンの前におくと、言いました。

「飲みなさい。」

「これはなんですか？」とライオンはたずねました。

「そうじゃな」とオズは答えました。「これが体の中に入れば、勇気になるのじゃ。もちろん知っておるじゃろうが、勇気というものは、いつも体の中にあるものじゃ。だから、これは飲みこむまでは、ほんとうに勇気とはよべんのじゃよ。じゃから、できるだけ早く飲むのがいいと思うがね。」

ライオンはもうためらわず、皿がからになるまで飲みほしました。

「さあ、どんな気分かね？」とオズはたずねました。

「勇気でいっぱいです」とライオンは答えて、うれしそうに仲間たちの所へもどり、自分のしあわせを話しました。

ひとりになったオズは、かかしとブリキのきこりとライオンに、それぞれがほしいと思っていたものを、うまくそのとおりにあたえられたことを考えて、にっこりしました。「どうしてペテン師にならずにいられようか」とオズは言いました。「できっこないとだれもが知っていることを、みんながわしにさせるのじゃから。かかしやライオンやきこりをしあわせにするのはかんたんじゃった。わしがなんでもできると思いこんでいたからのう。だが、ドロシーをカンザスへ帰すには、思いこみだけでは足りん。それに、どうしたらできるのか、わしにはさっぱりわからんのじゃ。」

たんご と クイズ　第16章　大ペテン師の魔法

chair いす	**straw** わら	**pins** 待ち針
needles 縫い針	**shears** 大きなはさみ	**heart** 心・心臓
bottle びん	**dish** 皿	

Q1 かかしの頭に入れられたのは？

① ふすまと針　② 宝石　③ 紙

Q2 きこりがもらった心は、なにでできていた？

① ブリキ　② 絹とおがくず　③ ガラス

Q3 ライオンは「勇気」をどうやって体に入れた？

① 食べた　② 飲んだ　③ ぬった

こたえ

Q1　①　オズは、ふすま（麦のぬか）に待ち針と縫い針をたくさんまぜて、かかしの頭につめました。

Q2　②　全部絹でできていて、中におがくずをつめた、かわいらしい心臓でした。オズは「とてもやさしい心」だと言いました。

Q3　②　オズが緑のびんの中身を皿にそそぎ、ライオンはそれを、皿がからになるまで飲みほしました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #43936（L. Frank Baum、1900年）。パブリックドメイン。
挿絵：W. W. Denslow（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Phil Chenevert（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。